

なかまのつどい

令和7年8月23日、懐かしい顔ぶれが集まりました。教育相談や幼稚部に在籍した後、それぞれの居住地の小学校、中学校、高校へと進学した「なかま」たちが、久々に母校へと帰ってきてくれたのです。「なかまのつどい」と題したこのイベントは、学校と児童生徒、そして保護者の皆様が互いの近況を語り合い、未来への希望を分かち合う、温かい再会の場となりました。

この日を楽しみにしていたのは、私たち教職員だけではなく、再会を果たした子どもたちは、一度おしゃべりが始まると、あっという間に時間は埋まっていきました。賑やかな声が校舎に響き渡り、久しぶりに顔を合わせる「なかま」の成長した姿に、みんな喜びを隠せない様子でした。

つどいは、子どもたちと保護者の皆様に分かれて行いました。子どもたちの時間は、ゲームをして楽しみながら、それぞれの学校生活などについて話をしやすい雰囲気作りに努めました。私たち教職員は、在籍していた当時の幼稚部での懐かしい出来事などを思い出しました。

一方、保護者の皆様とのつどいでは、互いの近況報告を中心に、子育ての悩みや工夫について語り合いました。互いの話を聞くことで、「自分だけが悩んでいるわけではない」と安心したり、他のご家庭の工夫を知ったりすることで、新たな発見やヒントを得る貴重な時間となったのではないかと感じています。私たち教職員も、皆様の現在のリアルな声を聞くことで、今後どのような支援が必要か、改めて考える機会となりました。

今回の「なかまのつどい」は、異なる環境で頑張る「なかま」たちが、お互いの生活や学習の状況を知ることで、「自分も頑張ろう!」と励みになる、かけがえのない時間だと思いました。

また、私たち弘前聾学校は、本校にかかわった子どもたちにとって、いつでも帰ってこられる「心の居場所」でありたいと願っています。子どもたちが居住地校で困難に直面したとき、あるいは、誰かに話を聞いてほしいと思ったとき、いつでもこの学校のことを思い出してほしいと思います。そして、ここには、共に過ごした「なかま」や、いつでも味方である教職員がいることを、思い出してほしいですね。そう願わずにはいられません。

今回の集いは、子どもたち一人ひとりが、それぞれの場所で堂々と、そしてたくましく成長していることを実感する、私たち教職員にとっても非常に有意義な時間でした。

保護者の方からは、楽しんでいる子どもの様子を見て、「しばらく来ていなかったけど、今回参加してよかった」「また連れてこようと思う」との声がありました。弘前聾学校はこの思いを大切にしながら、今後も、学校、保護者、そして子どもたち自身が、互いに支え合い、高め合っていけるような関係を築いていきたいと改めて感じています。

